

# JAL123便・御巣鷹事故から39年の夏

JAL不当解雇撤回争議団(JHU)

松山市在住 林 恵美

気候危機は年々高まり息苦し  
いほどの猛暑が続く中、今年も  
8月12日松山市駅前で「事故の  
教訓を活かし空の安全を守る」  
街宣を行った。事故から39年が  
経つたにも関わらず過去最高の  
支援者が参加して下さり、暑さ  
を吹き飛ばす大宣伝となつた。

1985年8月12日に起きた

世界最悪の事故は、同時にJAL  
の組合敵視政策を象徴的にえ  
ぐり出した。組合役員をしてい  
た私は成田空港にある客乗組合  
事務所で担当する部分の1年間  
の運動のまとめを作成してい  
た。翌日から2週間の夏休みで  
帰省する予定だつたが、夕方J  
AL機の機影が消えた、という  
ニュース速報で一変した。休暇  
どころではなくそれから1ヶ月  
半、殆ど成田に泊まり込み、職  
場の対応に追われた。羽田事務  
所は会社との交渉やマスコミの  
窓口となつた。

123便の機影が消えて、会  
社が最初に行つた記者会見の様  
子を映すTV画面を凝視してい  
た。会見席のすぐ後ろの白板に、  
手書きされていた123便に乗  
務していた客室乗務員の氏名。  
無事を祈りながら息詰まる思い  
で見つめていたが一瞬わが目を  
疑つた。氏名の頭に客乗組合員  
は赤丸、御用組合員には青丸の  
マグネットがつけられていたの  
である。

(裏面へ続く)



JAL123便事故機展示（日航安全啓発センター）

## JAL愛媛争議団を支える会

### ニュース



勝利解決の日まで  
たたかう

発行：JAL 不当解雇とたかう愛媛争議団を支える会  
連絡先：愛媛自治労連会館 3F 愛媛労連内  
松山市三番町 8-10-2

## 私も 応援します

私は新社会党愛媛県本部書記長の高橋勉です。先日の9月8日の大会で書記長に任命されました。元島本書記長や真鍋委員長が今年亡くなられ、前書記長の八木氏も昨年2月に病に倒れた中で重い任務を負うことになりましたが皆さん宜しくお願ひします。

私は若い時から労働組合青年婦人部運動・社青同運動や日本社会党の活動を続けて社会主義社会を夢見てきました。家族そっちのけで朝から晩まで家を飛び出していたので今では子供達からは良く嫌味を言われます。

世の中は変わらず、いや益々生活がしづらくなり働く者が虐げられています。私達の青春は何だったのか?何をしてきたのだろうと思いつますが、これが現実です。子供たちが就職して夫婦2人だけの生活になった時私達は松山を離れて出先の営業支店に転勤しました。それを機に労働運動や党運動から疎

## JAL闘争の重要性は皆同じ思い

新社会党愛媛県本部書記長  
高橋 勉

遠になりました。営業の職場はそうならざるを得ないほど労働運動とは無縁の世界です。58歳の定年前になり工場所在地の松山に帰ることになりました。それから再び少しづつ党運動に足を突っ込むようになりました。しかし、昔のように家庭を顧みず好き勝手にやることはせず、徐々に関わるようになりました。しかも深く。

JAL闘争について新社会党は中央本部や四国ブロックではよく関わっていたようですが愛媛では党として最近余り関わっていないようでした。色々事情があったようですが「このままでいいのか?支援運動に参加すべきだ!」との声が上がり最近から運動に参加するようになりました。非常に小さな政党で「おたやん飴」のようにどこに行っても同じような顔ぶれですがJAL闘争の重要性は皆認識しています。一生懸命に頑張ります。ともに闘いましょう。

本当に墜落したのかどうか乗客乗員の安否さえまだ解らない状況の中で、真っ先に組合所属を調べるというJALの姿勢を見せつけられた。

更に現場近くの群馬県上野村へ徹夜で駆け付けた仲間が援助を申し出ると「客乗組合の人は要らない」と断られた。全社一丸となって有事にあたるべき時

123便に松山出身の若い客室乗務員が帰省のため乗つていらつしやつた事が解り、ご自宅へ弔問に伺つた。未来あるお嬢様を突然失くされたお父様の憔悴しきつたお姿にかける言葉は見つからなかつた。彼女とは組

でさえ労務政策を優先するJALの姿勢は非常識で不謹慎極まりない。

27日。JALは「乗務員は危険を承知して入社している。乗務手當に危険手當も含まれている」と言う冷徹な企業理論を開した。一体誰が死ぬことを予測して入社するだらう?!

先輩の言葉が蘇つてくる「会社に任せていってはお客様の命も仲間の命も守れない」。

現在JALは人権方針を掲げているが労務方針は何ら変わっていない。「絶対安全」を守るべき公共交通機関としての矜持をどう守るのか?!

